

魚がのぼりやすい魚道が完成！！

大和川の水質改善のために、様々な取り組みを行っています。

河川浄化施設の整備

河川が本来持っている自浄作用の場である「瀬」と「淵」を再現した「瀬と淵浄化方式」、植物の力で水をきれいにする「植生浄化方式」など、汚濁の程度や地域特性、自然環境などに配慮し、様々な方式の河川浄化施設整備を進めています。平成22年度末現在で、22箇所が完成しました。

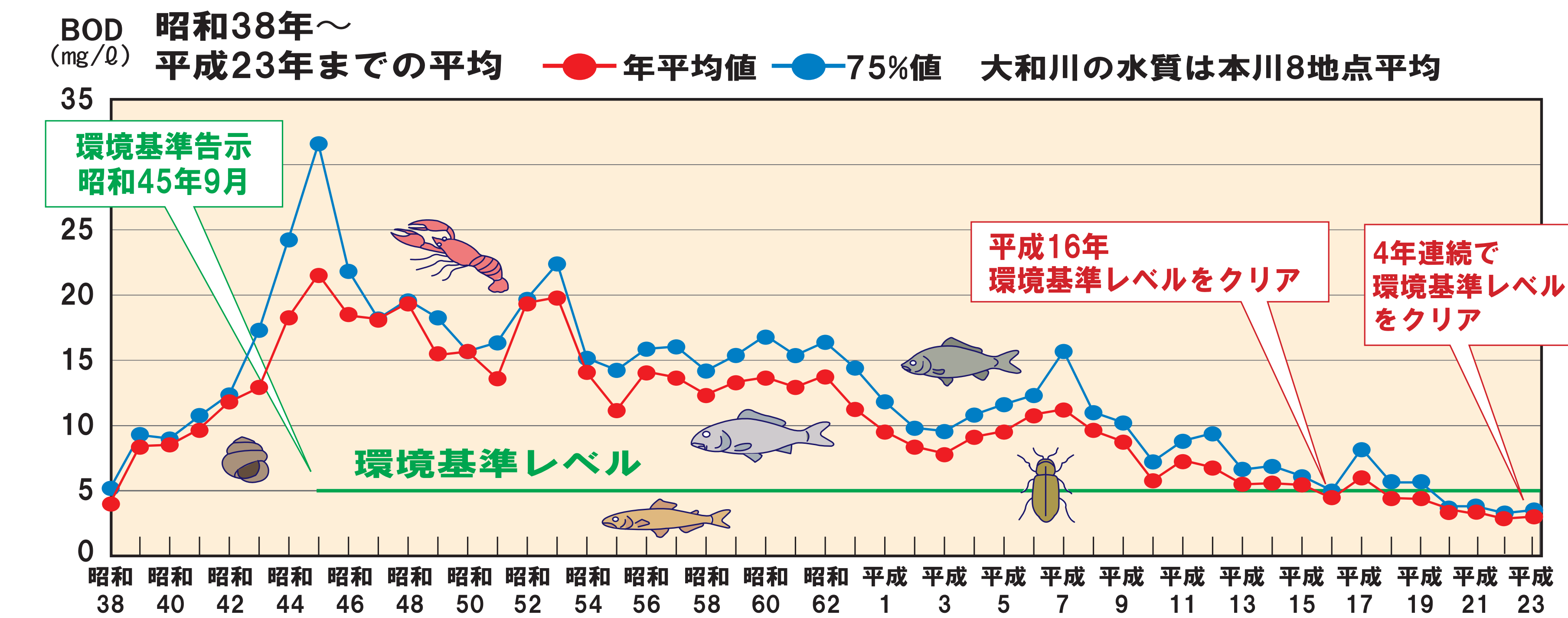


植生浄化方式（信貴川浄化施設）



瀬と淵浄化方式（大和川下流浄化施設）

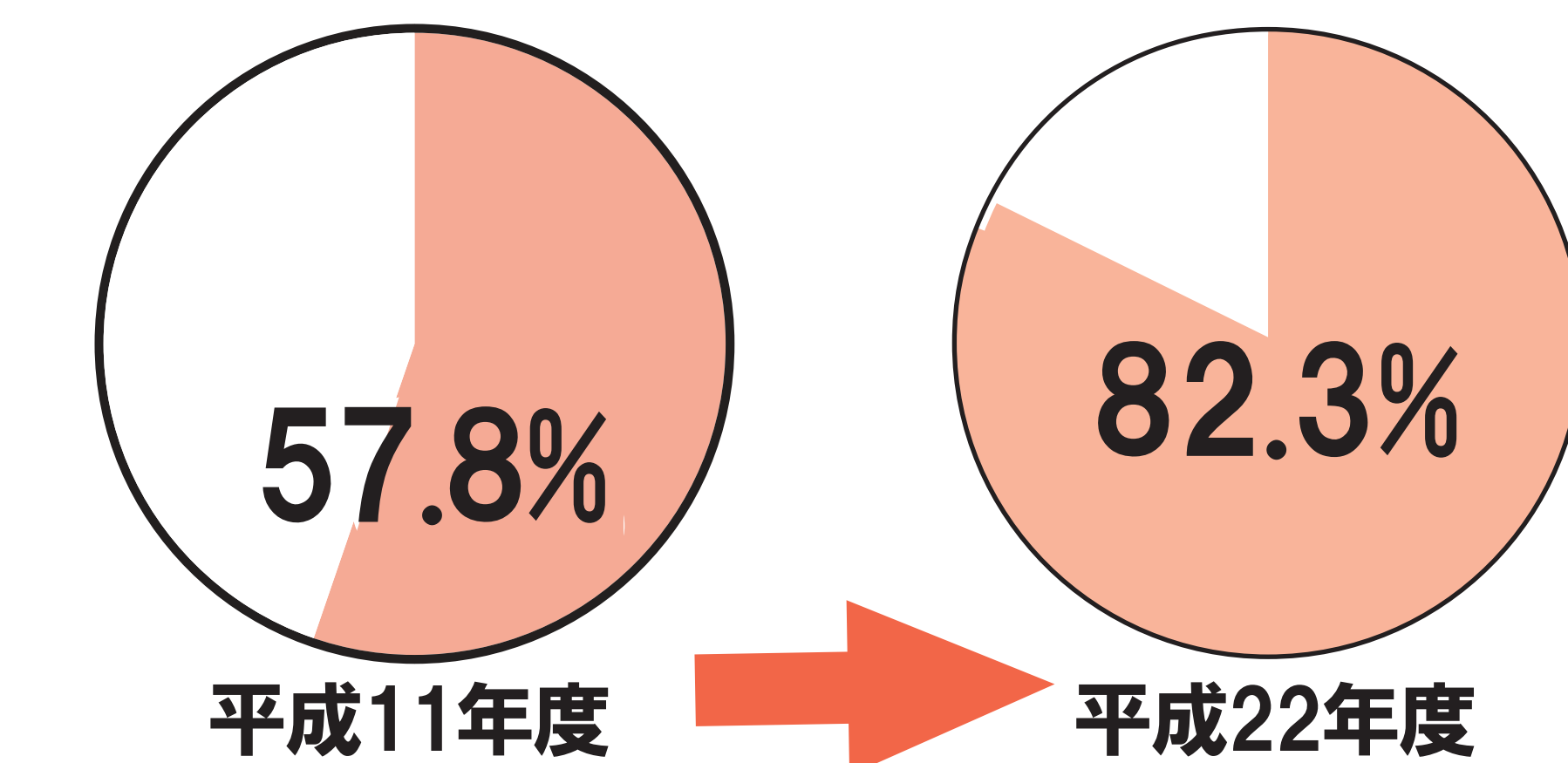
大和川の水質の変遷



下水道の整備や浄化槽の設置

流域全体で、下水道の整備や浄化槽の設置を推進しています。平成22年度末で大和川流域の下水道普及率は約82%。皆様のご理解とご協力のおかげで、着実にあがっています。

■大和川流域の下水道普及率の変化



柏原堰堤右岸魚道が完成

アユが中流の奈良県まで遡上し、魚捕りや水遊びなど水辺に多くの子供達の姿がみられた昭和30年頃の姿を目指して、大和川らしい多様な生物の生息・生育・繁殖環境の保全、再生、創出を行います。昭和29年柏原市に作られた柏原堰堤は落差が1.5mもあり、旧魚道は急勾配のため魚が行き来しにくい環境でした。そこでもっと緩い勾配の魚道を作り平成22年3月に通水したことにより、魚の行き来できる距離が奈良県川西町あたりまでの2倍となりました。

新しい魚道で確認された魚たち



アユ



ウナギ



オイカワ



柏原堰堤右岸魚道は様々な工夫を行っています



平成22年3月に完成した柏原堰堤右岸魚道

学識経験者からの アドバイスを反映

学識経験者等からアドバイスを頂き、より魚類や甲殻類がのぼりやすいように設計・施工を行いました。



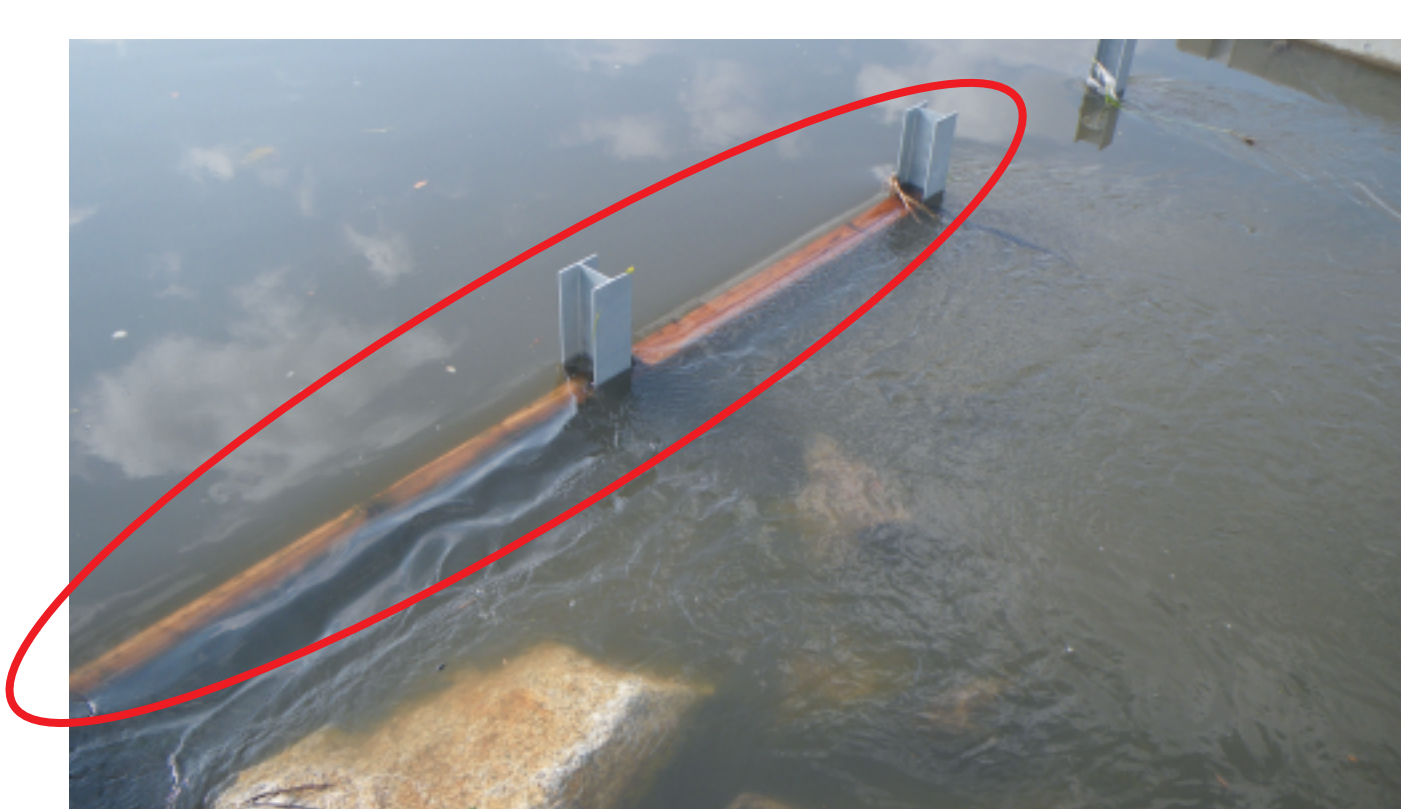
学識経験者との現地打合せ



蛇行した自然に近い流れを創出しました

流量調節機能、モニタリング機能

魚道の上流端部は角落としにより、魚道内の流量を必要に応じて調節できるようにしています。また、モニタリング実施時、定置網が設置できるように、取付金具等を設置しています。



角落としによる流量調節機能



取付金具等の設置



着手後 流量を増やすために、隔壁を一部けずりました



着手前

魚道完成後もモニタリング調査等から、より良い魚道になるように小さな工夫を行いました。

小さな工夫

